

SDGs宣言達成状況報告書

私たちは、宣言書に記載した取組目標の達成状況を次のとおり報告し、持続可能なまちづくりに向けて、次のとおり取り組むことを宣言します。

報告日 2023年2月7日

事業所・団体等又は関連事業者等としての2030年の(又は中長期的な)あるべき姿			
障害者福祉や障害者差別解消の推進を通して、障がいのある方の権利擁護を図り、地域において「誰も取り残さない」社会の実現を目指す。			
事業所・団体等又は関連事業者等としてのねらい、特徴的な活動			
当協会は静岡市内の三障がい(身体・知的・精神)の各団体が、障がいの種別を超えて結集し充足した団体である。地域で暮らす障がい者に対する相談支援事業を通して、障害者福祉の向上を目指す。			
目標に関連する取組内容			
ゴール	2022年12月31日までの取組目標	左記取組目標の達成状況	2023年12月31日までの取組目標
	コロナ禍による生活困窮は終息の見通しが立たない状況にあり、今後も障害者からの生活に関する相談は多くあるものと予想される。生活困窮者自立支援調整会議を毎月参加し、障害者の支援について関係機関団体と連携を一層進める。	新型コロナウイルスは、5類への引き下げなどが決定したものの、完全終息にはほど遠い状況にある。コロナウイルスに関する相談は減ったものの、少ない相談事例の中に貧困につながる深刻な事例も含まれている。	・貧困はコロナウイルスだけが原因でなく、障がい起因するものも含まれるため、今後も相談支援の充実を図る ・「生活困窮者自立支援調整会議」に毎月参加し、障害者の支援について関係機関団体と連携を一層進める。 ・貧困に関する理解を一層深める
	8050問題については、静岡市が令和5年度より本格的に実施する「重層的支援体制整備事業」に参画し、高齢分野等との確実な連携を進めていく。	重層的支援体制については、整備事業への参画に加え、障がい者団体として独自の視点から研究を重ねているところである。	・「重層的支援体制整備事業」が本格的に実施するにあたり、高齢分野等との確実な連携を図る ・あわせて、障がい分野の視点も働きかけていく。 ・他機関と連携し、8050問題に関する相談体制の充実を図る
	学校のバリアフリーの調査研究と関係機関の会議等への出席を通して教育機関との連携を図り、教育の合理的配慮の提供を働きかけていく。医療的ケア児の学区の小学校の就学について進める。	市特別支援教育センターの諸会議に出席し、障がい者団体・基幹相談支援センターの立場から教育の合理的配慮の提供を働きかけた。今期は、関係機関と協力して写真展を開催し、医療的ケア児の就学について啓発した。	・学校バリアフリーについて調査研究を進める ・医療的ケア児の学区の小学校への就学については引き続き取り組んでいく ・医療的ケア児の就学についての啓発を進める
	コロナのまん延状況によるが、機会をみて市民向け講座を開催し、ダイバーシティの啓発を進める。	ダイバーシティ啓発の講座は今期は開催できなかった。	・引き続き機会を見てダイバーシティ啓発の講座を開催する ・LGBT+の障がい当事者からの相談が寄せられることも予想されるので、相談スタッフの研鑽を図る ・男女共同参画の関係機関と連携を進める。
	就労は、社会参加の上で重要である。引き続き職場の理解や合理的配慮の提供を働きかけ、働きやすい職場環境をめざしていく。	障がい当事者から就労についての相談を受けたほか、ハローワーク等と連携して障がい者の就労に向けた取り組みを進めた。	・引き続き職場の理解や合理的配慮の提供を働きかけ、働きやすい職場環境をめざす ・就労関係機関との連携を進める ・障がい当事者の就職だけでなく、就労上の困りごとに対応していく
	静岡市障害者差別解消協議会は設置されているものの機能していないため、協議会の実施と有効に機能するように働きかけ、必要に応じて協働していく。	静岡県障害者差別解消相談窓口と連携して、障がい者差別に関する相談を受け付けた。 静岡市差別解消協議会の機能強化を働きかけた。	・静岡市障害者差別解消協議会の機能強化を働きかける ・静岡市の障害者差別解消相談窓口として差別事例・好事例の収集や分析を行う ・障害者差別の解消に向けた市民に対する啓発を行う
	交通バリアフリーの協議会については引き続き準備を進める。具体的な事例の集積を含め引き続き意見の発信を進めていく。	他の障がい当事者団体と連携して、交通バリアフリー協議会の設置に向けた準備を進めた。	・交通バリアフリー協議会の設置に向けて関係機関と準備を進める ・差別解消窓口と連携し、まちづくりに関する差別事例・好事例を収集・分析し、誰もが使いやすいまちづくりに向けて提言する ・公共施設や公共交通機関に対し、意見を発信していく。
その他	2021年度より進めている災害時にも障がいのある人が取り残さないためのモデル事業で得た事例を分析し、個別避難計画策定の優先順位を基に、地域での避難行動をより実践的なものとする。当協会のBCPについては、まだ取り組んでいないため、今年度から取り組みを進める。	昨年9月に発生した台風15号では、清水区を中心に浸水などの被害が発生したが、障がい者を含めた災害時要援護者に対する支援を関係機関に働きかけた。 モデル事業については定期的に検討会議を開催し、まとめの作業に入った。当協会のBCPについては取り組みなかった。	・台風15号での障がい当事者の被災状況についての調査を進め、内容について分析をすすめる。 ・モデル事業について、成果物を活用して地域での避難行動を実践的なものにする ・当協会のBCPの作成を進める

(記載上の注意)

- 1 取組目標は3つ以上のゴールについて目標を設定し、記載してください。
- 2 取組のない目標については、行ごと削除してください。
- 3 取組目標は、出来る限り定量的に記載してください。
- 4 ゴールとの関連が不明なものは「その他」に記載してください。
- 5 取組目標については、毎年1月に達成状況を報告していただきます。

1	事業所・団体等又は関連事業者等の名称	特定非営利活動法人静岡市障害者協会
2	業種	12. 医療、福祉
3	従業員(構成員)数	8人
4	代表者 職・氏名	職名 会長 氏名 牧野善裕
5	所在地	〒420-0854 静岡市葵区城内町1番1号 静岡市中央福祉センター
6	ホームページURL	http://www4.tokai.or.jp/shizu-shokyo/